

自分たちがつくる下田市の未来

下田市立下田中学校 1年 武藤 実佑

ペリー来航の地として深い歴史を持ち、綺麗な海やいくつもの山などの自然に囲まれている下田市。そんなのどかな下田市に住んでいると、ときどき考えることがあります。「未来の下田市は、どのようになっているんだろう？」と。

戦後日本は各地で都市化が進みました。伊豆も鉄道が敷かれ交通の便がよくなり、観光客でにぎわいました。今は縦貫道の工事が進み、観光客が来やすくなっただけでなく住民の日常生活の面でも便利になってきました。過疎化が進んでいるので今後の都市化は進まないと思います。しかし自分はあまり都市化して欲しくないと思っているのでむしろ好都合なのではないかと思っています。

自分は今の下田は「ちょうどいい」と考えています。下田はペリー来航の地であり歴史を感じられる寺やペリーロードなどが程よく残されています。一番の魅力である美しい海や山や川などの自然があり、金目鯛などの特産品が生まれ、釣りやサーフィンなどを楽しむことができます。小学4年生の頃、授業の一環として鮎釣りとうなぎもじりをしました。獲物を手にしたときの喜びは家や学校では味わえない高揚感がありました。そしてこのような体験をさせてくださる地域の方がいることも下田の良さだと思いました。自然も人も歴史も素晴らしく、暮らしていても安全で不便がないので、とても「ちょうどいい」と感じるのだと思います。

ただし、これ以上都市化を進めないとしても、時代に取り残されてしまうことは望みません。より便利なものが出てきたら、積極的に取り入れていきたいです。それは今ある自然を破壊しないように進めて行く必要があると考えています。

そこで考えた最適な方法は、「自然と歴史、発展をうまく調和させる」ということです。発展というと難しく感じるかもしれませんが、自分たちが日頃使っているコンピュータを使ったものや、総合の時間に考えた「自分の好きなものと下田の掛け算でできる新しいサービス」などのアイデアをたくさん出していくことによって「ちょうどいい」が少しずつ変化し発展していくのではないかと考えています。

情報機器やAIなどの技術によって、今できないこと例えば「自動運転のタクシーが塾の送り迎えをしてくれる」といったことも、自然を壊さないでできるなら進めたいです。自分が総合の時間に発表したアイデアはこんな感じです。「セントラルホテル×稲生沢川＝川遊び企画」「下田のホテル×星空＝星空を見ながらディナー」「観音温泉×和菓子＝観音饅頭」「観音温泉×シール＝カスタマイズ体験」。大好きな下田の自然と自分が好きなもう一つのを組み合わせて心から満足できる新しいものが生まれ、それを他の人にも楽しんでもらえたらうれしいと思います。下田の「ちょうどいい」ところを残しながら発展させることに挑戦し、活気があふれる下田になることを願います。

そして自分がすぐに行動に移せることは、ごみ拾いやポイ捨て禁止の活動だと考えてい

ます。自分たちでも取り組みやすいし、下田の自然を守り続ける意識を高めることにもつながります。

未来をつくっていくにあたって、「どうなっているのだろうか？」という他人任せな考えではなく「自分はこうなって欲しい」「自分は未来をこうしていきたい」という主体的な考えが必要だと思います。ひとりひとり、「こうなって欲しいな」「こうありたいな」という意見を最大限に活かしてよりよい下田市をつくっていきたいです。

自分は深い歴史と豊かな自然のある下田市が大好きです。この大好きな下田市を、ここに暮らす市民として自分たちの手で守り続けていきたいと、心から思っています。